

第 6 章 アジア歴史資料センター

I 国立公文書館アジア歴史資料センター諮問委員会

概 要

アジア歴史資料センター（以下「アジ歴」という。）では、国立公文書館アジア歴史資料センター諮問委員会（以下「委員会」という。）を開催し、業務を実施するに当たって、外部有識者から助言を得ている。

実 績

前期委員の任期が4月末日までであったことから、5月1日付けで今期委員及び委員長の任命を行った。なお、前期委員長（波多野澄雄）は4月1日のセンター長就任に先立ち、3月31日付けで委員長を辞任している。

委員会は、平成26年度には3回（7月4日、11月7日、平成27年2月10日）開催された。委員会では、委員が交代したこともあり、アジ歴のこれまでの取組を検証しつつ、デジタルアーカイブとしての情報提供のあり方、データベースの質向上のための方策、他機関との連携による情報提供の拡大方策、広報活動など活用促進の方策等について、中長期的な視点に立って議論が行われた。

(委員名簿、敬称略)

委員長	赤木完爾（慶應義塾大学教授）
委員	浅野豊美（中京大学教授）
	古賀崇（天理大学准教授）
	篠原初枝（早稲田大学大学院教授）
	戸部良一（帝京大学教授）
	松重充浩（日本大学教授）
	村田雄二郎（東京大学大学院教授）
	茂出木理子（東京外国語大学学術情報課長）

II アジア歴史資料データベースの構築

概 要

アジ歴は、「アジア歴史資料整備事業の推進について」（平成11年11月30日閣議決定）に基づき、開設（平成13年11月30日）以来、館、外務省外交史料館及び防衛省防衛研究所（以下「三機関」という。）が保管するアジア歴史資料を電子情報の形で蓄積する「アジア歴史資料データベース」（以下「データベース」という。）を構築し、インターネットを通じて情報提供を行っている。（資料6-1）

実績

1. 資料の新規公開

データベースでの新規公開に向けた作業は、①三機関が原資料のマイクロフィルム撮影及び画像デジタル化を行いアジ歴に提供する、②アジ歴は、それらのデータに画像圧縮変換及び目録情報の追加を行って公開用データを作成し、登録、公開する、の2つの工程からなる。

(1) 平成25年度受入れ分

平成25年度中に三機関から提供を受けた約103万画像に係る公開に向けた作業は、平成27年2月13日までに完了し、受入れから1年以内の公開を達成した。

これらの取組の結果、平成26年度末日現在の公開資料は約199万件、公開画像数2,913万画像となり、目標の約2,900万画像を達成した。

	24年度	25年度	26年度
公開資料件数	180万	190万	199万
公開画像数	2,600万	2,810万	2,913万

(2) 平成26年度受入れ分

平成26年度においては、館からは12月に約47万画像、外務省外交史料館からは平成27年1月に約16万画像、防衛省防衛研究所からは12月に約9万画像が提供され、合わせて約72万画像を受け入れた。なお、これらの約72万画像については、1年以内の公開に向けて作業を進めている。

(3) 平成27年度以降のデータ提供に係る取組

平成27年度以降のデータベース構築作業の調整を図るため、平成27年3月11日にアジア歴史資料整備担当者会議（アジ歴及び三機関の実務者で構成）を開催し、今後のデータ提供及び提供時期等についての意見交換を行った。

それらを踏まえ、各機関と引き続き調整した結果、平成27年度は、外務省外交史料館から約15万画像が、防衛省防衛研究所からは5万画像前後が、それぞれ提供される予定である。

2. 既公開データ遡及点検

公開データの精度向上及びデータベースの信頼性向上のため、既に公開しているデータベースの再点検を行い、目録データ等の誤り1,002件の修正を行った。

	24年度	25年度	26年度
遡及作業の修正箇所件数	1,137	1,451	1,002

また、平成28年度に予定しているアジ歴システムの更新（第4章Ⅲ5に記載）に向けた準備として、次のとおり、適切に表示されない画像データの再作成、修正などを行った。

- ・ DjVu 変換エラーの修正

DjVu 形式の画像データが破損するなどして、閲覧できない状態にある画像データについて、DjVu データを再作成した。(508 件)

- ・ 画像データの順序再編成

資料画像の各ページが順序どおりに表示されない資料について、表示順序を正した。(1,523 件)

- ・ 資料群の階層細分化

以前のデータベースは、資料の分類を示す階層数が限られていたため、階層構造の一部を簡略化していた。現データベースは、階層数の制限がないことから、各資料提供機関における階層構造を忠実に再現するよう修正した。(6,110 簿冊)

3. データベースの検索精度向上に向けた取組

データベースには、従来から資料の目録件名等に英訳データを付与している。その作業の正確性、客観性、信頼性を確保するため、アジア歴史資料センターデータ検証委員会を開催しており、平成 26 年度も目録件名の英訳検証作業（専門的見地から、資料中の用語を適切に解釈し、訳語を決定する作業）を実施した。(資料 6-2)

また、「辞書」機能及び「表記ゆれ検索」機能の充実を図るため、データベースに登録する用語の抽出を行った。(178 語)

Ⅲ アジ歴の利活用の推進

概要

アジ歴では、関係機関とのリンクによる資料提供機能の拡充など利用者の利便性向上のための取組を行うとともに、アジ歴の理解促進のため、インターネット特別展等のホームページ上のコンテンツの拡充を図るほか、国内外の関係機関の協力を得て、アジ歴の紹介を行っている。

実績

1. 情報提供資料の拡大に向けた取組

(1) リンクによる情報提供

リンクによる情報提供は、三機関からの提供資料と同様の利便性を維持しつつ、より幅広い資料を利用者に提供しようとする取組である。具体的には、三機関以外の協力機関から目録情報等の提供を受けてアジ歴のデータベースに登録しておき、利用者が検索結果から画像閲覧をする際に、インターネットのリンク機能を使って協力機関が公開するデータベースの資料画像を閲覧させる仕組みである。

平成 26 年度は、琉球大学附属図書館がインターネット上で公開している「琉球・沖縄関係デジタルギャラリー」の中から、アジ歴の対象となる「矢内原忠雄文庫植民地関係資料」(683 件、18,305 画像)について目録情報等の提供を受け、平成 27 年 3 月に情報提供を開始した。

また、今後の情報提供の拡大を図るため、アジ歴が平成 18~20 年度に実施した国内資料所

蔵調査等の結果に基づいて選定した候補機関に対して取組の概要等の説明を行い、協力のあり方について共同で検討を行っている。

(2) アジ歴利用を促進するためのアンケート調査

データベースの改善等を図るためには、利用者のニーズを的確に把握しておくことが重要である。アジ歴では、これまでもアジ歴ホームページを使ったモニターアンケート等を実施してきたが、回答者数が少ないことや外国の利用者からの回答が得られにくいなどの課題があったことから、より詳細な利用者の要望を把握できるように質問紙による調査を行った。

平成 26 年度は、北米アジア学会 (Association for Asian Studies, AAS) における展示ブースに日本語及び英語のアンケート用紙を設置するなど、計 4 回の調査を行った。アンケート調査の結果は今後の取組に反映させていきたいと考えている。(資料 6-3)

2. アジ歴の理解促進

(1) インターネット特別展の企画・作成

インターネット特別展は、広範な人々によるデータベースの利用を促進することを目的として、ホームページ上で提供する展示コーナーであり、歴史上の出来事等をテーマとし、これに関連する公文書等を紹介するものである。これまでに日本語版 9 つ、英語版 3 つの特別展を公開するとともに、より小規模な展示として、日本語版 2 つ、英語版 1 つの特集を公開している。

① 「描かれた日清戦争 ～錦絵・年画と公文書～」の公開

平成 25 年度に作成した大英図書館との協力によるインターネット特別展「描かれた日清戦争 ～錦絵・年画と公文書～」について、5 月 27 日に最初の公開を行った。また、引き続きコンテンツの拡充を図り、追加公開を 3 回行った。

なお、本特別展は、大英図書館との共同作業により英語版 (“The Sino-Japanese War of 1894-1895 : as seen in prints and archives”) も作成しており、日本語版と同時に公開している。



日本語版



英語版

② 「『写真週報』にみる昭和の世相」英語版の作成・公開

海外における認知度向上及び利用促進を図るため、平成 19 年度に日本語版を公開済みのインターネット特別展「『写真週報』にみる昭和の世相」の英語版“A Window into the Early Showa Period -*Shashin Shuho*: Weekly Photographical Journal, 1938-1945 -”を作成し、平成 27 年 3 月 31 日に公開した。同特別展は、戦前期に内閣情報部によって発行されていたグラフ雑誌『写真週報』の記事を通じて、当時の世相を紹介するものである。『写真週報』は、当時の写真が数多く紹介されており、二次利用の問い合わせも多く寄せられる資料であり、海外の利用者にも関心をもってもらえるものと期待している。



「『写真週報』にみる昭和の世相」の英語版

(2) 図書館、博物館の職員を対象としたアジ歴紹介事業の実施

平成 23 年度に実施した「アジア歴史資料センターの利用拡大に関する調査」では、利用者を類型化して、それぞれに効果的な広報を行うべきとの結果が取りまとめられた。それを受けて、資料展示の企画立案や利用者へのレファレンス・サービス等の場面での利用が期待できるなど、広報効果が高いと考えられる図書館、博物館の専門的職員（司書、学芸員等）を対象としたアジ歴紹介事業を、平成 24 年度から実施している。

具体的には、都道府県ごとに設置されている図書館協会、博物館協会等が主催する総会、研修会等に出向き、アジ歴紹介やデモンストレーションを実施するとともに、協会事務局から加盟館名簿の提供を受けて、各館あてにアジ歴リーフレット及びポスターを送付している。

平成 26 年度は、全国の図書館協会、博物館協会等のうち、実施済みの 57 か所を除くすべてに依頼を行い、訪問を受け入れてくれた 17 か所においてアジ歴紹介事業を行った。また、加盟館に対して、アジ歴リーフレット及びポスターを送付した。送付の際は、送付時期を数ヶ月ずつずらすことによって、送付先施設の職員に反復して印象付けできるよう配慮した。

さらに図書館、博物館におけるアジ歴認知度等に関するアンケート調査を行った。その結果、本事業により初めてアジ歴を知ったという職員が 75%あり、本事業の効果が高いことが確認できた。（資料 6—4）

平成 26 年度アジ歴紹介事業の実施状況

	実施件数	参加者数	リーフレット送付数	ポスター送付数
図書館	5	218	26,220	379
博物館	12	400	34,920	632
合計	17	618	61,140	1,011

(注) リーフレットの送付先には、紹介事業を実施しなかった施設を含む。

アジ歴紹介事業の実施件数（訪問実績）

	24 年度	25 年度	26 年度
図書館	20	10	5
博物館	17	9	12
その他	-	1	-
合計	37	20	17

(3) 海外における広報活動

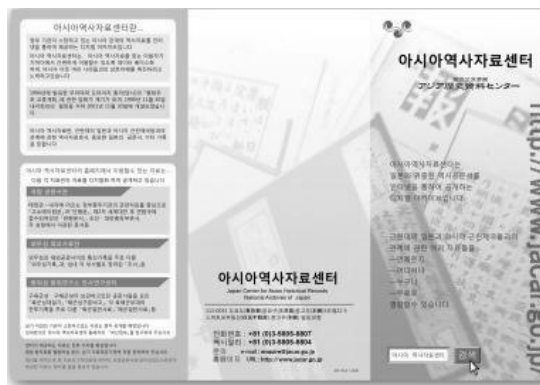
北米アジア学会等、日本研究者などが参加する国際会議等に参加し、ブース出展、ワークショップ開催、アジ歴紹介資料の配付等を行い、認知度向上及び利用の拡大を図った。このうち、日本史料専門家欧州協会年次総会においては、新規公開のインターネット特別展「描かれた日清戦争～錦絵・年画と公文書～」について、トルコ国家アーカイブ総局主催第 1 次世界大戦 100 周年記念国際フォーラムにおいては、アジ歴が保有する関連資料について、それぞれプレゼンテーションを行った。

また、これらの機会を利用して、平成 25 年度と同様、アジ歴認知度等に関するアンケート調査を実施した（調査概要については、上記の 1 (2) 及び資料 6 - 3 に詳述。）。

国際会議等の名称、開催場所	期日	内容
韓国ソウル大学校日本研究所及び国民大学校日本研究所主催特別講演会（韓国・ソウル）	6 月 10 日～11 日	講演 デモンストレーション
北米アジア学会（Association for Asian Studies, AAS）第 1 回アジア地域大会（シンガポール）	7 月 17 日～19 日	ブース出展
第 25 回日本史料専門家欧州協会 EAJRS（European Association of Japanese Resource Specialists）年次総会（ベルギー・ルーヴェン）	9 月 17 日～20 日	ワークショップ ブース出展 プレゼンテーション
トルコ国家アーカイブズ総局主催第 1 次世界大戦 100 周年関連国際イベント（トルコ・イスタンブール）	平成 27 年 3 月 19 日～21 日	プレゼンテーション
アジア学会 AAS 年次総会（米国・シカゴ）	平成 27 年 3 月 27 日～29 日	ブース出展

(4) 韓国語版アジ歴リーフレットの作成

海外における情報発信力の強化に資するよう、従来の英語版、中国語版に加えて、韓国語版のリーフレットを新たに作成した。今後の広報活動等に活用する予定である。



アジ歴リーフレット韓国語版

(5) 広告掲載

① 『全歴研研究報告書』

全国歴史教育研究協議会（全歴研）は、全国の高等学校教員（歴史教育）を対象とした団体である。高等学校の授業等においてアジ歴がより多く活用されることを目指し、第55回全国大会（7月30日～8月1日 於大阪府）の報告書に広告を掲載した。

② 雑誌『歴史街道』

歴史に興味をもつ一般的な人々に対するアジ歴の認知度向上及び利用促進を目指し、月刊誌『歴史街道』（PHP 研究所刊）平成27年1月号の特集「戦艦大和反転の謎」に「公文書が語るレイテ沖海戦と大和」と題する広告を掲載した。この発刊時には、紹介資料の閲覧数が増大するなどの一定の効果が見られた。

(6) その他の広報

国内外の公文書館職員やマスコミ関係者等に対してアジ歴の業務説明等を行った。さらに、関連すると思われる諸機関と今後の共同事業の可能性等についての意見交換を行っており、その中では今後、インターネット特別展を共同で作成・公開する取組の可能性等についても議論を行った（17回）。

3. ニュースレターの発行及び内容の充実

アジ歴の利用促進等を目的としたメールマガジン形式による「アジ歴ニュースレター」について、日本語版及び英語版を3回発行した。（資料6-5）

また、継続的にユーザ登録の働きかけを行った結果、ニュースレターの配信登録者は逐次増加し、平成26年度末時点で1,445人となっている。

アジ歴ニュースレター	23年度	24年度	25年度	26年度
配信回数	4	3	4	3
登録者数	526	661	1,023	1,445